

# 令和3年ホヤ類調査結果速報 No. 4

令和3年10月18日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

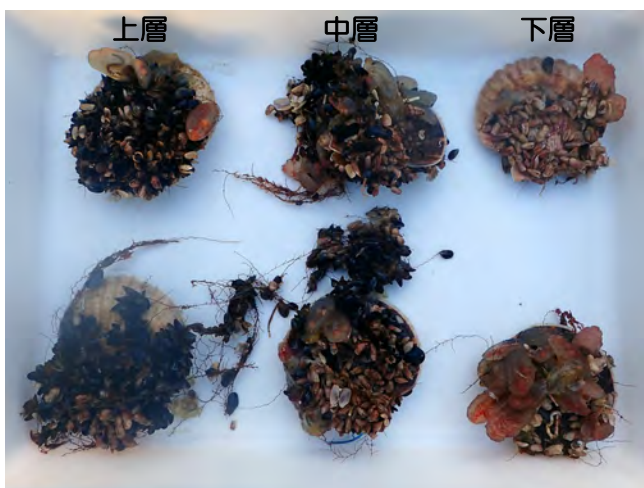
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

10月12日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

## 結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は減少しました（図1、図3上）。付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり11.1個体で（表1）、過去10ヶ年の平均値の約1/3です（図3上）。
- 平均サイズも小さく、付着重量は過去10ヶ年の平均の約1/6にとどまっています（図3下）。
- 5mm未満の微小な個体はほとんど見つからず、耳吊りホタテガイに新たに付着する個体は非常に少ないと考えられます（図2）。
- 今年は付着量が少ない年と考えられますが、耳吊り時期や場所により、付着量にはバラツキがあります。付着量が多い場合は、貝洗い等の対応を進めてください。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和3年10月12日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池  
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※本調査および情報配信は特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構から委託された令和3年度ザラボヤ被害防止ネットワーク構築委託事業で実施しています。

# 1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：10月12日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり11.1個体、平均サイズは20.5mmでした。前回の調査（16.0個体）から、個体数は減少しました（図3上）。また、平均サイズは過去10ヶ年の平均（25.3mm）より小さく、成長も遅いと考えられます（図2）。今後、付着個体の成長に伴い、付着重量は増加すると見込まれますが、今年は付着個体数が少ないだけでなく、成長も遅いため、増加のペースは例年よりかなり緩やかになると考えられます（図3下）。ただし、出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出る場合があります。付着状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和3年10月12日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	60.4g	61.3g	43.2g	55.0g
ヨーロッパザラボヤ	5.5g	10.9g	14.1g	10.2g
その他	54.9g	50.5g	29.1g	44.8g
ヨーロッパザラボヤ個体数	5.6個体	12.4個体	15.2個体	11.1個体
令和2年10月(R2.10.16)の個体数	35.6個体	42.2個体	17.8個体	31.9個体
令和元年10月(R1.10.17)の個体数	41.8個体	64.8個体	37.6個体	48.1個体
平成30年10月(H30.10.15)の個体数	19.6個体	13.8個体	20.0個体	17.8個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和3年6～10月）

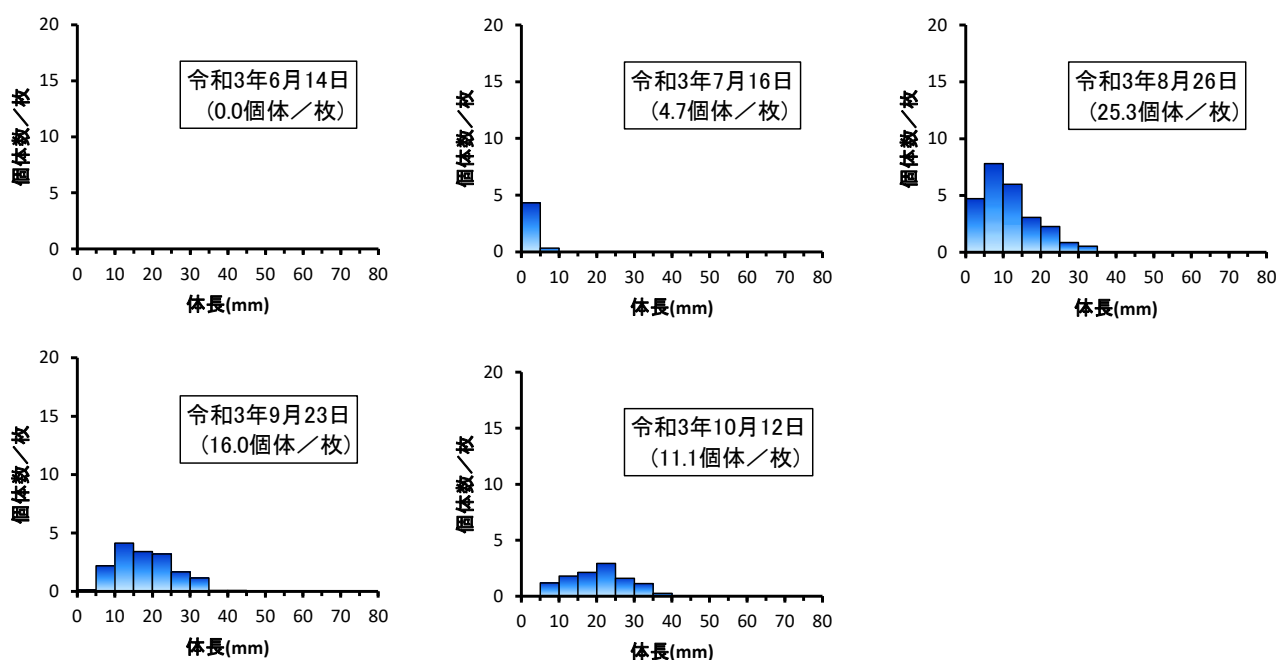
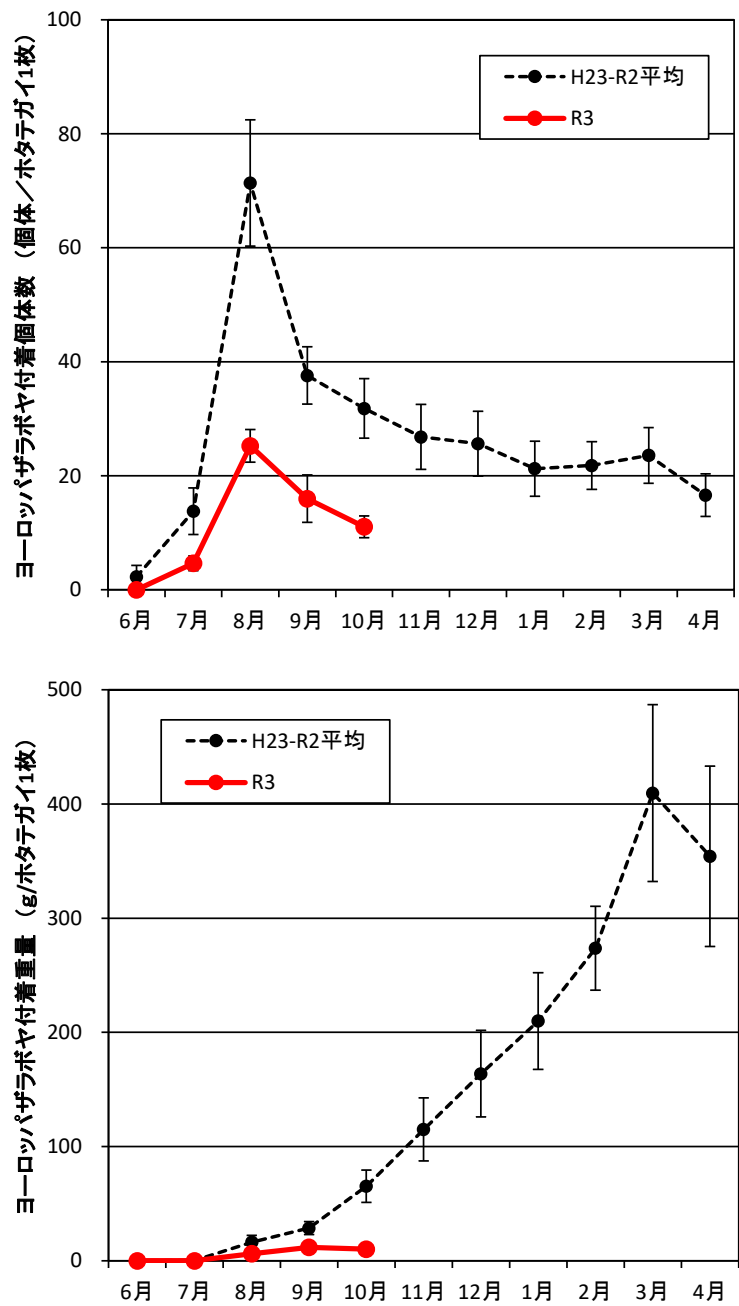


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去10ヶ年（H23～R2年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。例年であれば、付着重量は10月以降、急激に増加しますが、今年は、付着個体数が少なく、成長も遅いことから、重量の増加ペースは例年よりもかなり緩やかになると見込まれます。